

With

冬
2009
vol.47

ウィズセンター情報誌

- 特集 ウィズフェスティバル 2008
岡山県男女共同参画社会づくり表彰
記念講演 松平 定知さん（NHK「その時歴史が動いた」キャスター）
- 絵てがみコンテスト
- ワーク・ライフ・バランス講演会
佐々木 常夫さん（㈱東レ経営研究所 代表取締役社長）
- 団体紹介（特定非営利活動法人 さんかくナビ）



もりやま よしくに
森山 徳國さん（倉敷市）

平成20年度 絵てがみコンテスト ウィズ大賞受賞作品

ウィズ
フェスティバル
2008
開催

岡山県男女共同参画推進月間（11月）の行事として、ウィズフェスティバル2008が11月9日から11月15日までの7日間、きらめきプラザに移転したウィズセンターを会場に開催されました。



テーマ

気づこう 築こう
みんなにやさしい参画社会



両備グレースタクシー(株)
執行役員営業本部長 榎尾 恵さん



岡山市消防局予防課
消防士長 小西 淳子さん



岡山県警察本部警務課
巡査長 山本 泰代さん



「ウィズフェスティバル2008」PRイベント

開催が間近となった10月30日(木)、青空が広がる中、JR岡山駅前広場においてPRイベントが盛大に行われました。

若草保育園の園児による元気一杯の鼓笛隊に始まり、その後、男性の多い職種・職場で活躍する県内の3人の女性から熱いメッセージをいただき、実行委員が中心となって街行く人々にチラシを配付し、その機運を盛り上げました。



実行委員長あいさつ

ウィズセンターが平成11年にクレドビルにオープンして以来10年目を迎え、ウィズフェスティバルも記念すべき10回目、きらめきプラザへの移転後としては初めてのフェスティバルとなりました。

この10年の間に、男女共同参画の理念は徐々に社会に浸透し、理解されてきたとはいえ、まだまだ不十分な状況と思われます。私自身、そのような状況を打開し、活動のネットワークを更に広げたいという強い思いから、実行委員会へ参加いたしました。実行委員会のメンバーは、初参加の期待の新鋭やセンター設置

の当初から関わってきたベテランが集う10回目にふさわしい顔ぶれとなりました。会場も変わり、事業内容の見直しもあって、企画立案の段階から、当日を迎えるまで大変でしたが、各部会（広報部、事業部、交流部）の皆さんが議論を尽くし、知恵を出し合って見事にやり遂げてくださいました。皆さんに感謝！感謝！です。



ウィズフェスティバル2008実行委員会
実行委員長 杉本 慧子



平成20年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰（県知事表彰）

男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であり、今後も活躍が期待される個人及び事業者をたたえる表彰式が、平成20年11月9日にきらめきプラザで行われ、福田県生活環境部長から表彰状と記念品が贈られました。

●個人の部

(50音順 敬称略)

氏名	住所地	役	職
宇野 均恵	笠岡市	笠岡市男女共同参画推進委員会委員	
梅延 正武	備前市	備前市男女共同参画推進審議会会長	
貝原己代子	岡山市	岡山市男女共同参画専門委員会委員	
清野 幸代	倉敷市	倉敷市男女共同参画審議会副会長	
佐藤由美子	岡山市	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員	
佐山 笑子	津山市	久米地域団体連絡協議会副会長	
重松 壽美	津山市	津山地域男女共同参画活動推進センター幹事	

氏名	住所地	役	職
時實 達枝	岡山市	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員	
中桐美和子	岡山市	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員	
中島 知子	井原市	井原市男女共同参画ネットワーク会長	
野崎 英子	瀬戸内市	瀬戸内市男女共同参画推進の会「さざなみ」運営委員	
廣畑 周子	瀬戸内市	瀬戸内市男女共同参画推進の会「さざなみ」運営委員	
藤井 桂子	新見市	にいみフォーラム運営委員長	
山本都久子	高梁市	たかはしWithフォーラム運営委員長	

●事業者の部

国立大学法人岡山大学

岡山大学病院では、出産・育児などによる女性医師・看護師の離職を防ぎ、サポートするための「女性を生かすキャリア支援計画」を実施しています。

初年度は、まず女性医師の支援に取り組みました。若手医師・学生に対して最適な助言者を紹介し、女性医師のネットワークを強める「岡山MUSCAT」、個人の事情に応じて家庭と両立可能な復職支援コースを提供する「MUSCAT WILL」を2本柱に、女性医師の家族や職場の同僚たちからなる「サポータークラブ」が支える仕組みになっており、女性も男性も働きやすい職場を目指し、病院を挙げて取り組んでいます。平成19年度から始まった取組ですが、この期間に復職する女性医師が18名になるなど、着実に効果が現れてきています。同様に、平成21年から看護師のサポートネットワークを立ち上げ予定です。さらに、病児保育の実現に向けて準備を進めています。

また、本取組は、岡山大学以外にも広く門戸を開いており、女性医師・看護師ひいては医療人全体の働きやすさの向上も期待されます。



▲先輩と後輩が親交を深める「MUSCAT ミーティング」の特別版の様子。講演やパネルディスカッションなどが盛大に行われ、先輩からの温かいメッセージが伝えられました。



◀復職を支援する「MUSCAT WILL」のトレーニングの様子。臨床現場のさまざまな状況を想定した実習が行われています。

ウィズフェスティバル2008を記念して、NHK「その時歴史が動いた」でお馴染みの松平定知さんから、2008年大河ドラマの主人公篤姫を中心に歴史を動かした女性にスポットをあて、お話いただきました。



講演 「私の取材ノート」 ～その時歴史を動かした女たち～

講師 松平 定知 さん (NHK「その時歴史が動いた」キャスター)

鎌倉時代は男女同権

先日、大学で「北条政子」を取り上げましたところ、何人かの学生から「武家社会だったのに、なぜ女性が権力を持つことができたのか」という質問が出されました。答えは簡単。実は、鎌倉時代は男女共同参画時代だったのです。男女が同権の時代でした。

考えてみれば、かつて卑弥呼の時代から、日本は女性に司られていました。男が上、女が下、というような、とんでもない風潮が生まれだしたのは南北朝のあたりからですが、それとて、太平洋戦争が終わるまでのホンの600年くらいの間です。

人類400万年の歴史を思えば、それはまさに瞬きのようなものであります。

江戸時代の女たち I 「春日局」

NHK大河ドラマ「篤姫」がお陰さまで大人気でございまして、今日はそれにあやかって、彼女たちの話をします。彼女たち、というのは、「春日局」と「天英院」と「篤姫」です。彼女たちは、「女性たるもの、生まれてから死ぬまで、父・夫・子、この三代にひたすら仕えるべし」という、あの「女、三界に家なし」を叩き込まれた、江戸時代の儒教精神のなかで、それぞれに、自分の立場で懸命に生き、「歴史を作ったひと」であります。

江戸時代に、徳川幕府を支える制度の一つに「大奥」というのがありました。徳川の時代を未来永劫にわたって続けるために、「徳川の血を絶やすことがないように」という趣旨でつくられた制度ですが、そのこと自体の是非はいま措くとして、これが徳川時代を支えていたことは事実です。で、この三人は「春日局」がこれをつくり、「天英院」がこの中興の祖となり、「篤姫」がその幕引きをした、という役割だったとご理解ください。大奥には、常時千人近い女性がいましたが、それぞれの時代にその頂点に立っていたのが、この三人の女性でした。

まず、「春日局」。彼女は、明智光秀、あの本能寺の変で信長を自死に追い込んだ武将ですが、彼の親戚・斎藤利三の娘です。幼名はお福と言いました。彼女は、稲葉さんと

いう武将のもとに嫁ぎ、子供も得て、岐阜の里で静かな日々を送っていたときに、突然、二代將軍秀忠の息子の乳母になる運命になります。この「息子」が三代將軍家光です。実母は、あの織田信長の姪・お江(与)さん。彼は、弟に比べてやんちゃで、鼻っ柱が強く、両親は、後継ぎには温順な弟を、と思っていたのですが、「長男を差し置いて次男が征夷大將軍になるようなことあれば、社会の秩序が乱れます」と、「春日局」は奔走し、後継は「家光」に決まるという経緯がありました。戦乱に明け暮れて、政權地盤がまだ脆弱だった秀忠の時代を経て、この「家光の時代」になると、徳川政權の地盤はようやく盤石になります。そして、その「徳川の血」が絶えることなく、代々続くようにという目的から、さきほどの「大奥」の制度がつくられ、彼女は「総元締め」になるのです。

江戸時代の女たち II 「天英院」

その後、家綱、綱吉と將軍が続き、江戸時代も爛熟期。大奥も、その夕ガが緩み始めていました。あの「絵島生島事件」が起きたのもこの頃です。さて、そんな中、五代將軍綱吉には、実子ができませんでした。さあ、六代將軍をどうするか、大問題になりました。で、結局、当時甲府の領主だった「家宣」に白羽の矢が立った。家宣もびっくりしたでしょうが、もっとびっくりしたのは妻の「天英院」です。甲府の領主夫人として穏やかな日々を送っていたのに、突然天下の將軍夫人・御台所になれ、というのですから。彼女と家宣の間にはまだ子供はいませんでした。御台所になった瞬間、夫とは夜を共にしないという「掟」があるため彼女には終生実子がなかったのです。やがて夫と奥女中との間に男子が生まれ、彼が七代將軍になるのですが、幼少のころ、病死してしまう。幼児ですから、当然後継ぎはいない、將軍が死んで後継ぎがいなかったらそこで徳川時代は終わってしまう。幼い將軍が瀕死の床にあった時、彼女は、後継ぎをめぐる権謀術数渦巻く中、右往左往する男どもをしり目に、元將軍夫人の立場で、毅然と次期將軍に吉宗を指名し、さらに、大奥の風紀正常化にも成功して、徳川幕府の危機を救ったのでした。

江戸時代の女たち Ⅲ 「篤姫」

「篤姫」については、いまNHKで絶賛放映中ですから、皆さんの方がお詳しいでしょうが、奇しくも同じような宿命を負って徳川の將軍の妻として生きることになった「和宮」と二人して、江戸城無血開城に尽力するのです。



政治の中心地（当時、江戸は首都ではなかったのですけれど）に一滴の血も流れずに政体が変わる、こんなことは世界史の規模でも稀有のことですが、その大事業にこの二人の「女性」が関わっていた、この事実は、皆さん是非知っておいていただきたい。これまで我々は、「この事業は西郷と勝の男同士の太っ腹会談の結果、そうなった」と教えられてきましたが、それも一方でその通りなんですけれど、それとは別に彼女たちの命を賭した懸命の「女性特有の、細やかな、それでいて決然とした手紙攻勢」もあずかって大きかったのだという事実を、是非記憶にとどめておいていただきたいのです。「歴史の陰に女性あり」じゃあないのです。堂々と、「表」に女性の存在があるのです。しかも、あの男尊女卑の風潮が極めて強かった江戸時代においても、であります。この世の中は、男女で動く。この昔からの当たり前の事実を、もっとたくさんの人に知っていただきたいと思います。男女共同参画事業。この正しい考え方での皆様方のご健闘を、心からお祈りします。

登録団体交流会

11月9日(日)

第1部はウイズセンター会議室において、登録団体20団体、きらめきプラザの入居機関11団体、来賓、実行委員を含め、63名の参加でにぎやかに行われました。10年目を迎えた今年はウイズセンターの歴代所長をお招きし、過去9年間のウイズフェスティバルの様子を写真とナレーションで構成したスライドショーを見ながら振り返りました。歴代所長からは近況報告や2009年へのメッセージとして『これからの男女共同参画にかける思い』をテーマにお話していただきました。入居機関の皆さんからはそれぞれの団体の活動内容などの説明があり、福祉への理解を深めることができました。



第2部は7階の会議室に場所を移して登録団体情報交換会が開かれました。実行委員手作りのお菓子とお茶をいただきながら、各テーブルからスピーチしてもらい、和やかに交流しました。歴代所長との再会も懐かしく、思い出話に花を咲かせながら、最後にみんなでウイズソングを歌って、共同参画推進への思いを新たにしました。

第2部は7階の会議室に場所を移して登録団体情報交換会が開かれました。実行委員手作りのお菓子とお茶をいただきながら、各テーブルからスピーチしてもらい、和やかに交流しました。歴代所長との再会も懐かしく、思い出話に花を咲かせながら、最後にみんなでウイズソングを歌って、共同参画推進への思いを新たにしました。



登録団体紹介コーナー

男女共同参画社会の実現に向け、県内各地域で活動しているウイズセンター登録団体のうちの93団体についてその活動内容を掲示しました。



❖ ワークショップ

11月11日(火) ☒

「Let's 太極拳」

指導：華武太極拳会員

主催：14期岡山県女性のバス☒

登録団体による企画事業の先陣を切って太極拳の体験とデモンストレーションを行いました。講師は14期岡山県女性のバスの会員であり、華武太極拳の会員



でもある池田さんと梶田さんが務めました。最初に「練功十八法」と呼ばれる太極拳の基本を体験、中国情緒たっぷりの音楽に合わせて、ゆっくりと首・肩・腰・足などを動かして、体をほぐしました。次に二十四式太極拳をデモンストレーションDVDで鑑賞しました。流れるような動きの中



中に全身運動が含まれており、見ていだけで気持ちがほぐれてきます。最後に講師の二人が扇を使った新しい太極拳「太極功夫扇子」を披露しました。

❖ DVを知る上映会

11月11日(火) ☒

「彼女たちはなぜ…」

主催：特定非営利活動法人さんかくナビ☒

「彼女たちはなぜ…」と題して、加害者を殺し、服役している4人の女性の証言で綴るドキュメンタリー「私を守るーDV被害者と女性達の証言」(アメリカ)と、内閣府の啓発ビデオ「根絶！ 夫からの暴力04」の上映会を開催しました。DVは、身近にあるかもしれないのに、表面化しにくい問題でもあります。男性を含め、30余名もの参加を得て、ドキュメンタリーでは、その悲惨な過去と結末を知り、参加者で共有することができました。内閣府の啓発ビデオでは、相談機関の周知の必要性を強く感じました。それぞれの立場で市民としてできることをはじめることが解決への一歩であると確信できる催しとなりました。



❖ ワークショップ

11月11日(火) ☒

「知ろう！ わかりあおう！

～持続可能な地球社会へ～

ファシリテーター：時貴 達枝さん (世界女性会議岡山連絡会責任者)

主催：世界女性会議岡山連絡会☒

5月に横浜で「第4回アフリカ開発会議」、7月に北海道・洞爺湖で「主要国首脳会議 (G8サミット)」が開催され、さまざまな課題について討議されました。

この機会に世界人権宣言、女性差別撤廃条約や北京行動綱領を再確認して、ミレニアム開発目標の「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」の実現に向けて、人権・ジェンダー平等の視点から持続可能な地球社会を考えました。

ファシリテーターの時貴さんから、8月に北京で開催されたオリンピックの参加国・競技や7月の「G8女性人権フォーラム」、貧困をなくするために立ち上がる「STAND UP TAKE ACTION (10/17-19)」、女性差別撤廃条約の日本政府第6回報告書等をジェンダーの視点から考える



話題提供があり、参加者は食料の問題(食の安全、食の自給率等)や家族、地域コミュニティ、宗教、民族に関する様々な意見を交換しました。

❖ ワークショップ

11月12日(水) ☒

「クリスマスリースの制作講習会」

講師：石井 雪江さん

主催：(財)日本ユニセフ協会岡山県支部☒



きっかけは、毎年私たちが行っている「ユニセフチャリティーバザー」に役立てて欲しいと大量の手作りクリスマスリースの材料を寄付していただいたこと

でした。これを使って参加者の皆さんと一緒にクリスマスリースを作り、材料費全額をユニセフに募金しようと企画しました。はじめにユニセフ活動についての話を聞いていただいた後、ワイワイと交流しながらリースの枠を作り、好みの飾りをつけていきました。個性豊かで素敵なリースが出来上がりました。楽しみながら、自分に何ができるかということを考え、世界の現状や、子どもたちを取り巻く現実の厳しさに思いを馳せることができました。講師の石井さん、多田さんは「趣味でしてきたことが生かして、皆さんに喜んでいただけただけで本当うれしかった」と感想を述べられました。小さな積み重ねの芽吹きを感じたひとときでした。



❖ ワークショップ 11月13日(木) ❖
「幸せを育む素敵な人間関係」
 講師：萩尾 寛江さん（選挙理論心理士）
 主催：より良い人間関係を学ぶ心理学（CTクラブ）❖

馬のパズルをテーブルごとに分かれ取り組みました。「この3枚のピースを使って元気に走る馬を作って！」との講師の指示で始めました。参加者はこれが頭、これが足と、いろいろ置き換えましたがうまくできません。後で「これは頭のように頭ではありません」と言われ、いろいろ考えましたがこのテーブルもできませんでした。それは最初の言葉に惑わされていたからで、発想を転換して、切り抜きのようにすればきれいな馬が浮かび上がりました。このパズルワークから私たちは日ごろ、最初の印象や思いこみなどで評価していることがあるということを感じることができました。

また、現実と感じる世界、欲求の強弱、理想とする世界はひとりひとり違うので、お互いに尊重し、認め合うことが大切だということ学びました。



❖ 講演 11月13日(木) ❖
「レイプは“魂の殺人”です」
 ～被害後の人生を輝いて過ごすために～
 講師：大藪 順子さん（フォトジャーナリスト）
 主催：(社)被害者サポートセンターおかやま❖

この講演会は、1999年自宅で就寝中にレイプの被害に遭いながらも、その後立ち上がり「同じように傷つき、生きていく人たちの姿を伝えたい」と全米で性暴力サバイバー達の素顔を撮影、取材するプロジェクトを展開しているフォトジャーナリスト大藪順子さんを講師に迎えました。



自らの経験、思い、実際に撮影した写真をスライドで上映しながらそれぞれのサバイバーたちの生きざま、彼らから教えられたことについて語っていただきました。「たとえどんな状況、状態でも性暴力被害者は悪くない、加害者は被害者の安全安心に暮らす権利を奪い、人権を侵害しているのです」と強く訴えられました。



我々被害者支援ボランティアにとって、根本となることをあらためて意識させていただきました。約70名の参加者は熱心に聴き入り、感動的な余韻の残る会となりました。

❖ 講演 11月14日(金) ❖
「在宅で介護している家族への支援」
 講師：菅崎 仁美さん（岡山訪問看護ステーション看護協会会長）
 主催：岡山県訪問看護ステーション連絡協議会❖

医療・介護の動向により、在宅で療養される方が増加しています。在宅で療養される場合、病院や施設とは違い、環境的なことや介護力等、様々な不安や困難が生じてきます。在宅で療養中の方やそのご家族、また今後在宅で療養・介護の必要となる方の不安や困難が少しでも軽減されるよう、この講演会を企画しました。



菅崎仁美先生より、在宅介護で利用できるサービスや、具体的な関わり方、悪化させないための方法等、例を挙げながら丁寧にご講演いただきました。

来場者より、在宅での介護は不安が大きく、色々なサービスが使えることやケアマネジャーとの関わり方等が分かり、今後の参考にしたい、また認知症の方との接し方は、とても役に立った等のご感想をいただきました。



社会資源や、関わり方を知ることで、在宅での介護不安・困難の軽減に繋がっていただけたら幸いです。

❖ ひとり人形芝居 11月15日(土) ❖
「涙を笑いにかえた私の生き方」
 出演：西宮 小夜子さん（ねぎぼうずSAYO）
 主催：ウィズフェスティバル2008 実行委員会❖

フェスティバル最終日は、西宮小夜子さん（ねぎぼうずSAYO 主宰）によるひとり人形芝居が開催されました。



自身の実体験に少し想像を加えて創られた大人向け人形劇の中から、良妻賢母を目指し孤軍奮闘する主婦の悲しさとおかしさを盛り込んだ「ざ・からあげストーリー」、嫁姑問題を笑いで表現した「スイートホーム」、同名の曲に乗せた「大きな古時計」、ちょっと過激な「スーパー・ウルトラ・エグゼクティブ・松」、定年後の人生を扱った「50過ぎたら、こんなもん」、以上5つが上演されました。幕間にはそれぞれの作品にまつわるエピソードを話しながら、たったひとりでも何体もの人形を操るSAYOワールドに参加者一同魅了され、大笑いしながらの楽しいひと時を過ごしました。



観劇後のグループに分かれての話し合いの場では、「短時間の劇の中に家庭内の様々な問題点が盛り込まれ、男女共同参画が楽しくわかりやすく表現されていて良かった」といった感想が聞かれました。

パネル展示

【出展団体】

- 特定非営利活動法人さんかくナビ
- 岡山県交通安全母の会連合会
- おかやま女性国際交流会
- (財)日本ユニセフ協会岡山県支部
- (社)被害者サポートセンターおかやま
- スペシャルオリンピックス日本・岡山
- 世界女性会議岡山連絡会
- よりよい人間関係を学ぶ心理学 (CTくらぶ)



ウィズフェスティバル2008 実行委員

氏名	所属団体等
青野 雅世	特定非営利活動法人さんかくナビ
池上 淑恵	おかやま女性国際交流会
池田 公子	おかやま女性国際交流会
大月 基史	特定非営利活動法人さんかくナビ
岡村咲津紀	いかさ女性セミナー
岡村 英俊	岡山地域男女共同参画活動推進センター
金谷 安子	H16年度男女共同参画ゼミナール修了者
川畑 鈴子	イーブくらしきネットワーク
姜 博	外国人相談センター
坂根阿喜子	岡山市女性大学三期会
杉本 慧子	県女性のバス13期会
土屋 瞳	フォーラム2000まび



(50音順 敬称略)

氏名	所属団体等
寺田 和子	岡山さんかく会
寺脇 孝子	岡山地域男女共同参画活動推進センター
中桐美和子	大学婦人協会岡山支部
中山 美保	岡山女性フォーラム
根本 敦子	14期岡山県女性のバス

氏名	所属団体等
萩尾 寛江	よりよい人間関係を学ぶ心理学(CTくらぶ)
藤井 明美	H16年度男女共同参画ゼミナール修了者
藤村侑久子	H19年度男女共同参画ゼミナール修了者
三宅 義親	特定非営利活動法人さんかくナビ
森田 稔	特定非営利活動法人さんかくナビ

ウィズライブラリー

～ セカンドライフをどう生きる? ～

図書



『無所属の時間で生きる』

- ・ 城山三郎 著
- ・ 新潮文庫 (2008年)

どこにも関係のない、どこにも属さないひとりの人間としての時間—それは、人間を人間としてよみがえらせ、より大きく育て上げる時間となるだろう。「無所属の時間」を過ごすことで、どう生き直すかを問い続ける著者の思いが凝縮された随筆集。

図書



『女の活路 男の末路』
—老いの時代を生き抜くチカラ—

- ・ 袖井孝子 著
- ・ 中央法規 (2008年)

老いを生きるうえで直面するさまざまな問題、夫婦・親子関係、お金、介護、住まい、シングルライフ…そうした問題で生ずる男女の意識のズレや葛藤、要因等を社会的視点から分析し、その解決策を探る。

図書



『役に立たない日々』

- ・ 佐野洋子 著
- ・ 朝日新聞出版 (2008年)

68歳は閑である。淋しい? 冗談ではない。この先長くないと思うと天衣無縫に生きたい、思ってはならぬことを思いたい。絵本「100万回生きたねこ」の著者が、60代後半の「楽しくてしかたない日々」をつづった痛快エッセイ。

～ 新着ビデオ ～

DVD



『典子は、今』

- ・ 日本
- ・ 117分 (2007年)

サリドマイド薬の影響を受けた身体で誕生した典子。母は運命を嘆いた。しかし、失われた両手をくやむより、残された身体で何ができるのかと立ち上がった。泣くことを止めた母と典子は、力の限り生きることに挑戦していく。



絵てがみコンテスト

平成20年度男女共同参画



ウィズセンターでは開設10年目を迎え「男女共同参画社会」を“絵と言葉”で伝える絵てがみ作品の募集をいたしました。どの作品も家族やパートナー、社会等への優しい想いが込められた素晴らしい作品ばかりでした。全応募作品143点の中から、入選作品21点を選考し、ウィズセンターへの来館者による投票により、ウィズ大賞3点・ウィズ賞7点が選ばれました。

祝

ウィズ大賞

3点



河内とし子さん (吉備中央町) 区



田原花恵さん (吉備中央町) 区

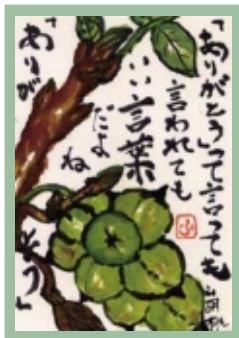


森山徳國さん (倉敷市) 区

祝

ウィズ賞

7点



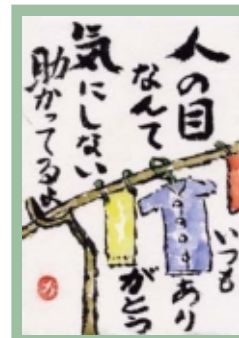
香川美紗子さん (倉敷市) 区



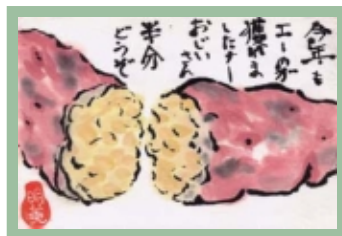
杉山鞆絵さん (倉敷市) 区



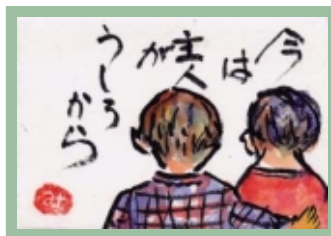
本田久美さん (岡山市) 区



水川勝子さん (倉敷市) 区



岡本明美さん (美作市) 区



石井美智子さん (倉敷市) 区



吉川寿賀代さん (備前市) 区



全応募作品の展示



入選作品21点の展示



自閉症の長男や肝臓を患い、うつ病を併発した妻の介護と看護に追われる日々を続けながらも、仕事への情熱は失わず、仕事の効率化を徹底し、(株)東レの取締役、(株)東レ経営研究所の社長となった佐々木常夫さんから、家族への想いや究極の仕事術についてお話していただきました。



講演 「仕事も家庭も決してあきらめない！」 ～仕事への情熱・家族への想い・人々との関わりをとおして～

講師 さ さ き つね お
佐々木 常夫さん (株)東レ経営研究所 代表取締役社長

自閉症の長男

ダスティン・ホフマンが自閉症者を演じた『レインマン』という映画がありましたが、長男はあれほどすごい能力ではありませんでしたが、小学1年生の時、漢和辞典を読んで2カ月半で中学3年までの漢字を覚えたり、地図帳を見て国や地名、山・川・人口などを全部覚えたりしていました。ただ、学校ではトラブル続きで、クラスの子どもは彼を面白がっていじめ、不登校になってしまいました。その時、私はクラスのリーダーにみんなを家に連れて来てもらって、自閉症とはどういう障害か、健常者はハンディのある人達をサポートする義務があるというお話をしたのです。そうすると、いじめはなくなりました。

最近ではノーベル賞をもらった人が自閉症だったりということがありますが、日本では100人に1人くらい、全国で100万人の自閉症者がいるといわれており、何故か8割以上が男性です。

妻の自殺未遂

妻は昭和59年に急性肝炎で入院し、その後うつ病も併発し、計43回入院しています。うつ病だとわかったのは平成12年頃で、それまでは肝硬変とばかり思っていました。平成12年に妻が自殺未遂を起こした後、私は家族の問題を会社でもオープンにしました。部下を集めて「病院か本人から電話があったら、どんな状況でも私に伝えて欲しい」と。しかし、その翌年、自殺未遂を2回起こしました。通常であれば亡くなっておりましたが、たまたま娘が見つけたのです。妻がうつ病になった原因は3つぐらいありました。一つは障害のある子どもを産んだと思ったことで自分を責めました。また、家事等は完璧であった妻が入院のため何もできず、仕事が忙しい夫が家事や介護、看護をしていることに「私なんかいない方がいい、死んだ方がいい」と自分を責めました。三つ目は、性格の不一致です。私は明るく周りにたくさんの友達がいるのですが、彼女は一人の方がいいおとなしい人でした。

日本は年間に自殺する人が3万人以上いて、その半数がうつ病だといわれています。しかし、うつ病で自殺未遂を起こした人はその10倍を下らないと思います。

身体障害者は日本に350万人います。うつ病の人は500万人、自閉症者は100万人です。引きこもり、不登校は120万人、認知症は200万人を超えました。その数にニート、シングルマザー、家庭内暴力、C型肝炎、ガンの手術をして再発

を恐れている人などを加えますと2,000万人を超えるのです。日本人の6人に1人、あるいは5人に1人は何らかのハンディをかかえています。しかし、あたかもこの世の中は健常者だけで構成されているように見えます。なぜでしょう？みんな言わないからです。自分の家族にうつ病や自閉症者がいることを会社に言わないのです。話すに恥ずかしい？話すに世の妨げになるから？私はある時期から会社でオープンにしましたが、何も問題はありませんでした。むしろ、みんながサポートしてくれました。

仕事の基本とタイムマネジメント

私は家族の為に自分の時間を費やさなければなりませんでしたが、誰もが映画を観たい、ジムに通いたいなどやりたいことがあるのです。それができない最大の障害が、長時間労働と非効率労働です。仕事の進め方の基本というのは、計画主義と効率主義です。ビジネスは予測のゲーム、先を見越した戦略、時間の効率化が必要と常に部下には言ってきました。「国の富の8割は2割の人間が占める」という「パレートの法則」がありますが、仕事も同様で、その人のプライオリティの高い仕事を2割すれば全体の8割の仕事をしたことになるのです。昔から私は「手抜き佐々木」というあだ名があります。ただ、重要な仕事は完璧にやります。たいした仕事でなければ3割か4割でいいのです。

ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスの効果は3つあります。一つは、社員が頑張る気持ちになります。6時に退社して自分の好きなことをやれば体調もいいし、リフレッシュできます。また、私のように6時に退社しなければならなかった人間は、ただだと仕事をやっていられず、最短コースで仕事を考えますから生産性が向上します。そして、こういう会社は評判がよく、有能な人材の確保につながるのです。

しかし、日本の企業経営者達はワーク・ライフ・バランスについて、まだ本気ではありません。その理由は、職場の多忙が日本企業の競争の源泉だと思っているからです。寝ても覚めても仕事のことを考えることによって、人が育ち仕事の幅が広がると思っています。8時間仕事をする人より、12時間仕事をする人の方が勝つでしょう。ただ、8時間の方が勝つためには、12時間の人より脳細胞をより多く使い、どうすればより早く良い結果を出せるかを考えればいいのです。

特定非営利活動法人 さんかくナビ

代表：^{かいばら みよこ} 貝原 己代子

女性の自立と支援をめざし発足した「NPO法人 さんかくナビ」。民間シェルターの運営などDV被害者の支援を中心にデートDVの防止など多様なサポート活動に取り組んでいます。また、先頃岡山県で開催された「全国シェルターシンポジウム2008 in おかやま」においても中心となって活動し、大会を成功に導きました。☑

沿革

さんかくナビは、2004年6月「市民に対して、男女平等な社会を築くため、男女共同参画に関する事業を行い、女性の自立支援に寄与すること」を目的として、20代から60代までの男女十数人の会員で発足し、現在、主にDV被害当事者の支援活動と訪問介護事業を行っています。法人設立の中心となった3人は、2000年8月の岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」の市民活動支援事業で出会い、条例の作成や条例普及ビデオ製作などに貢献しました。その後3人は、「女性の人権を阻害する要因であるDVは社会的問題である」と再認識し、市民としてのDV被害当事者への支援のため、法人を設立し、民間シェルターの運営を始めました。また、法人そのものが財政的な自立をすることを重視し、訪問介護事業を並行して始めました。

民間シェルター

シェルターは、寄付金や自主財源を元に1部屋からスタートしましたが、現在は自主財源に加え、補助金や助成金を得て5部屋を確保し、主にDV被害当事者及び同行してくる子ども達への支援を行っています。DV被害当事者の事情や状況はそれぞれ異なっていますが、民間ならではの柔軟さを発揮して必要な支援を行っています。4年間でのシェルター利用者は、子どもや家族を含め75件110名にのぼります。利用希望者が増える中、支援可能な範囲で部屋を増やしてきましたが、需要に追いつかないのが現状です。

デートDV対策

さんかくナビでは、その他にもDV休日電話相談、DVサポートコーディネートなどの委託事業や、新しい課題の

デートDV防止と被害当事者支援の必要から、弁護士や医療関係者などとともに「デートDV防止プロジェクト・おかやま」を立ち上げて、事務局を引き受けています。

このプロジェクトでは「最大のDV防止は最初から加害者を生まないこと」と考え、デートDVの防止に力を入れ、インターネット掲示板による相談や、学校での講演、デートDV被害当事者の相談やサポートを行っています。

～あなたの悩みを教えて～



全国シェルターシンポジウム2008 in おかやま

地域でシェルター運営や支援活動をする中で見えた課題を解決すべく、全国の支援団体との連携を進め、協力して政策提言などをしてきました。そして、DVに関する法整備や社会資源は少しずつ進んできましたが、十分ではなく、今後もロビーイングが重要です。

今、抱える課題の解決に向けて、地元岡山のDVに関する社会認識の拡大、行政や専門機関との連携を深めるため、去る11月22日(土)・23日(日)、川崎医療福祉大学にて「第11回全国シェルターシンポジウム2008 in おかやま」を開催し、全国から900名の参加を得ました。1年前から市民グループによる準備会をスタートさせ、5月には行政関係者も含めた実行委員会を発足させました。本当に多くのおみなさんの支援や協力が得られたのは、これまでの活動の実績が評価されたのだと嬉しく思っています。

シンポジウムでは、アメリカの先進的なシェルター運営の実態と課題を学び、20の分科会では支援者や当事者が抱えるさまざまな課題の解決に向けた大きな力を得ました。各界来賓の方からもエールをいただき、全国の支援者とともに思いを熱くしました。そして、最後に包括的な性暴力禁止法を作るための一歩を踏み出すことを誓い締めくくりました。

この大会に取り組むことで、今後は、DV防止と被害当事者支援には連携が重要だと確認できた事と思います。これからもNPOならではのネットワークのよさで、DV根絶をめざし、男女共同参画社会の実現に向け取り組んでいきます。





ウィズセンターは **土・日曜日も開館** しています。
お気軽に、お越しください。

会議室の利用について



◇ 会議や研修に最適 ◇

★研修会、ワークショップ、会議、講演会などで使っていただけます。(特定の政治活動または宗教活動及び営業を目的とした場合を除く)

★ご利用手続き

①仮予約

ウィズセンター登録団体は利用日の3か月前の月の初日から、その他の団体等については2か月前の月の初日から予約を受け付けます。(電話可)

②利用許可申請書提出及び利用料支払い

利用日の1週間前までに直接センターへお越しのうえ、申請書記入と利用料の払い込みをしてください。

★収容人数

学校形式：最大50人、会議形式：最大40人、椅子のみ：約80人

★会議室使用料

午前 (9:30~12:00)	午後 (13:00~17:00)	夜間 (18:00~20:00)
1,400円	2,200円	1,100円

午前・午後 (9:30~17:00)	午後・夜間 (13:00~20:00)	全日 (9:30~20:00)
4,100円	3,800円	5,700円



(附属設備)

区分	単位	金額
液晶プロジェクター	1台1回につき	900円
ビデオデッキ	1台1回につき	300円

※9:30から17:00まで、または13:00から20:00までの時間帯の利用は、それぞれ2回、9:30から20:00までの時間帯の利用は3回として計算する。

ウィズセンターの紹介

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、いわば、女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた本場に豊かな社会です。ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを推進していくための施設です。

情報提供

- 図書・ビデオの貸出
- 人材情報・各種団体の活動情報の提供
- 男女共同参画に関する資料の閲覧

各種講座

- 男女共同参画に関する各種講座の開催

相談

- 女性の相談員による生き方・家族や夫婦などの悩みの相談
- 弁護士・医師による相談

就業支援

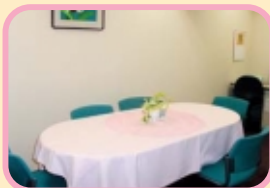
- 就業相談
- 就業に役立つ講座の実施
- 就業に関する情報の提供

交流

- 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

広報

- 情報誌の発行(年4回)
- メールマガジンの配信(毎月)



ウィズセンター利用のご案内

開館時間 火～土曜日/9:30～20:00
日曜日/9:30～17:00

休館日 月曜日・祝日・年末年始

相談員による一般相談 火～土曜日(祝日を除く)/9:30～17:00
就業相談 (受付は16:30まで)

特別相談(予約制) 弁護士による法律相談/原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談/原則第1・3金曜日
医師によるからだの相談/原則第1土曜日

電話 086-235-3307(代表)
086-235-3310(一般・特別相談)
086-235-3309(就業相談)

ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>

交通案内

徒歩/

岡山駅前から約15分

タクシー/

岡山駅前から約5分

路線バス/

岡山駅前から [岡電バス]津高方面・万成方面行「跨線橋東」下車 徒歩約4分

[中鉄バス]津高方面・一宮方面行「跨線橋東」下車 徒歩約4分

[宇野バス]赤磐方面行「番町口」下車 徒歩約3分

天満屋バスセンターから

[岡電バス]三野・妙善寺方面行「番町口」下車 徒歩約3分

※ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。



センターへのご意見はご遠慮なくハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ

ウィズ冬号 (vol.47) 2009年1月発行

編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)

〒700-0807 岡山市南方2丁目13-1

きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階

TEL(086)235-3307(代) FAX(086)235-3306

Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp